

認知症地域支援体制推進全国合同セミナー

地域と連携・協働するために
～ 富士根南地区社協支援の取り組みから ～

社会福祉法人 富士宮市社会福祉協議会
小野田 正樹

1. 富士根南地区社協への支援

(地区社協の組織化から小地域見守りネットへ)

(1) 地区社協の組織化支援

① 各地域の状況を把握（地域アセスメント）

② 住民リーダーへの説明と同意

③ 福祉を学ぶ学習会を開催

（月1回ペースで半年間開催→設立することへの意思を確認する。）

※結果として、必要性を感じなければ、組織化しないことも1つの選択肢。

④ 設立準備委員会で協議

（月2回以上実施。設立趣意書～会則の作成）

⑤ 平成18年7月11日に市内11番目の地区社協として「富士根南地区社協」が設立

(2)小地域見守りネットワーク活動支援

- ①「ふれあい」から「支えあい」へ
→気がかりな住民を見守る地域づくりを提案。
- ②プロジェクトチームの立ち上げ
→住民の意思決定により取り組む基盤。
- ③住民リーダーとの協議（合意形成）
→取り組む必要性は理解できるが、地域で取り組む
となると・・・？ でも、やるのは今でしょ！
- ④ネットワーク委員会の立ち上げ
→各地区の実情や地域福祉の課題を共有。
- ⑤各地区への支援（出前講座）
→川原崎会長と各区へ出向き、住民理解や活動参加
を働きかける。

2. 地域(地区社協)と専門職 の連携した取り組み

(1) 連携会議（うららの会）

○各出席者（地区社協、地域包括支援センター・地域型支援センター・福祉サービス事業所の専門職、保健センター保健師、市社協CoW）で情報共有や課題協議する中で、連携できる関係性を構築していくことを目的とする。



- ①地域や専門職が対応している個別ケースの解決方策の検討。
- ②地区社協で取り組む活動の企画を検討。
- ③各出席者の実践状況を確認。

※「連携・協働」と言いつつ、縦割り・役割分担別の関係性だけでは、真のネットワークは構築できない。

(2) 地域ケア会議

① 目的

高齢や障がいなどの状態になっても、家族、地域住民(地区社協関係者)、専門職などの支援によって、できる限り、住み慣れた地域で暮らし続けることができるようフォーマル、インフォーマルの関係者で協議する。

② 内容

- i 検討課題となる事例に関する基礎知識を専門職から学ぶ。

(例) 認知症とは、〇〇障がいとは、
〇〇病とは、虐待とは…。

ii 支援を必要とする住民に関する事例検討
(専門職より課題提起)

(例) 認知症(ひとり暮らし)高齢者の支援について、身体・知的・精神障がいのある方への理解と支援について、生活困窮の状態にある方への支援について等。

iii 支援の方策をグループワーク形式で検討。

iv 実施可能な支援方策と連携・協働して支援にあたることを確認。

(3) Aさんの支援に関する 地域ケア会議開催までの経過

◇ケアマネさんから、市社協へ相談

(ケアマネさんが把握するAさんの状況)

- ・ひとり暮らし男性(70歳)。
- ・アルコール依存症・うつ病。
- ・物忘れがひどい。
 - …5分前に買ったものを忘れ、2度買ってしまう。
- ・他人の顔や名前を覚えられない。同じ話を繰り返す。
- ・些細なことで急に怒り出す。
- ・曜日や時間がわからなくなっている。
 - …デイサービス(週2回)やホームヘルプ(週3回)の利用を忘れ、出かけてしまう。

- ・娘さんがいるが遠隔地にいるので、急な対応はできない。
- ・突発的に熱が出ることが多い。(原因は不明)



地域みなさんに、
「ふだんの見守り支援」や「地域寄り合い
処への参加」に誘ってもらうなど、本人を
支えてもらうお願いできないか？

◇市社協から、地域へ相談(働きかけ)

(地域が把握しているAさんの状況)

- ・見守り対象者になっている。
- ・訪問するとほとんど留守。
- ・節電しているのか、電気も点いていないことが多い。
- ・近隣との関係性が悪い。(助言や支援を拒む。)
- ・地域寄り合い処に来ると他者に文句を言ったり、活動中に野次を飛ばしたり、邪魔をしたりするので困っている。来ることは構わないが、できれば来てほしくない。
- ・いつもアルコールの臭いがしている。
- ・歩いている姿を見かけ、あいさつするが返事が返ってこない。
- ・夏祭りなどでカラオケがあると、マイクを握って離さない。



Aさんの姿が地域の人たちに見えておらず、誤解から偏見が生じている。「見える形」して、理解を図っていかなくては…。



地域ケア会議の開催に向けての調整

※そして、何度も、何度も、粘り強く、
開催できるよう住民リーダーへの説得が始まった。

◇Aさん支援に関する

地域ケア会議 展開表

時間	内容
5分	1. あいさつ
20分	2. 「富士根南地区社協と小地域見守りネットワークの取り組みについて」(講話)川原崎会長
10分	3. 「認知症の方の理解と対応について」 (講話)在宅介護支援センターソーシャルワーカー
10分	4. 「認知症のAさんを支えるために」 (課題)居宅介護支援事業所ケアマネ
30分	5. グループワーク (①事例に関する感想意見 ②地域でできる支援)
15分	6. 各グループから発表(話し合われた意見について)
15分	7. まとめのコメント (地元自治会長、川原崎会長、居宅介護支援事業所ケアマネ)

◇ 参加者の意見から

(Aさんに関する説明を聞いて感じたこと)

- ・見た目だけでは認知症と判断できない。
- ・説明を聞いて、はじめてご本人が認知症だということを知った。
- ・デイサービスの時間と重なるため、見守り訪問しても不在だということが分かった。
- ・寂しい思いをされていて、アルコール依存だということが分かった。
- ・みんなが知っているAさんに対する気持ちが何となく変わった。もう少し受け止めてあげられれば……。



「誤解や偏見があった。」というやさしい意見が多かった。

◇ 参加者の意見から

(Aさんに対して、どのような支援ができるでしょうか?)

- ・近隣なのでAさんの見守りは私が担当します。明日から、毎日世話を焼かせていただきます。
- ・もっと、声かけする。(出会ったら、「車に乗っていきませんか？」と声をかけたい。)
- ・デイサービスに行っているとか、ヘルパーが来ているということを教えてほしい。
- ・体調が悪い時には、ケアマネさんから地域に連絡してもらえれば、すぐに様子を見に行きます。
- ・遠隔地に住んでいる家族も交えて、ご本人の支援について話し合う場を作ってはどうか。
- ・個人情報提供できないというが、要支援者の状態が悪化したり、問題が発生してからでは遅い。早期の段階で地域関係者にも相談してほしい。

3. 地域と連携・協働するために

みなさんをお願いしたいこと

1. 地域と連携した支援を検討する際、地域の資源（活動や人材等）を把握している市町村社協をうまく活用してください。
2. 複合的な課題を抱えているケースの解決方を検討する際は、その課題を「見える形」にして、フォーマル・インフォーマルで連携して取り組むようにしてください。

地域福祉コーディネーター として心がけていること

1. 地域の中に、困っている人を支えてくれる人をたくさん作ること。
2. 住民まかせや福祉専門職まかせにしないこと。
3. 人が排除されない地域づくりをしていくこと。
4. 同じ課題を持つ人たちどうしを繋いでいくこと。
5. 他人の幸せを自分の喜びとすること。